

授業科目 小児看護援助論Ⅰ	区分・教育内容 専門分野Ⅱ 小児看護学		
授業担当者 秋山 祥子 (専任教員)	開講時期 前期～中期	単位数 1 単位	時間数 30 時間
授業の目 健康障害を持つ子どもと家族が、生活・療養するための看護実践に必要な知識を身につける。 授業の目標 1. 健康障害を持つ子どもと家族の心理および対応の方法を理解する。 2. 健康障害を持つ子どもと家族に対する看護援助の方法を理解する。 3. 子どもの発達段階を踏まえた看護援助の方法を学ぶ。			
授業概要 健康障害は子どもの成長・発達に大きな影響を与えます。小児看護学概論で学習した知識を基に、どのような影響をおよぼすのかをとらえ、それらを最小限にするための関わりを学習します。 演習では、子どもに看護技術を適用する際に忘れてはならない理念をベースに、看護実践に必要な知識と基本となる技術、求められる工夫について学びます。さらに、ジグソー学習法を導入することで、各自が責任をもって役割を果たし、仲間と学び合うことで主体的な学習態度と学習スキルが育つことを期待します。			
授業計画 (進め方) 1 回目 病気や障害が子どもと家族に与える影響とその看護 2～ 6 回目 状況に特徴づけられる子どもと家族の看護 ・入院中の子どもと家族の看護 ・外来受診をする子どもと家族の看護 ・障害のある子どもと家族の看護 ・医療的ケアが必要な子どもと家族の看護 ・災害時の子どもと家族の看護 7～10 回目 健康障害の病期別の子どもと家族の看護 ・急性症状のある子どもと家族 ・慢性的な疾患をもつ子どもと家族 ・終末期の子どもと家族 ・手術を受ける子どもと家族の看護 11 回目 検査や処置を受ける子どもの看護 12 回目 救急救命処置が必要な子どもと家族の看護 13～15 回目 小児の看護技術：ジグソー学習法による演習			
テキスト 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護各論 医学書院 山元恵子 写真でわかる小児看護技術～小児看護に必要な臨床技術を中心に～ インターメディカ			
参考書・指定図書 筒井真優美 これからの小児看護 ～子どもと家族の声が聞こえますか～ 南江堂			
評価の方法 筆記試験 60% 演習および提出レポート 40%			